

## 5種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ）予防接種説明書

この説明書をよく読み、予防接種による効果や副反応、健康被害時の救済制度などをよく理解し、不明な点がある場合は接種を受ける前にお尋ねください。5種混合ワクチンは、ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ（急性灰白髄炎）およびHib（ヒブ）感染症を予防する効果があります。

### 1 病気について

#### (1) ジフテリア

ジフテリア菌がせきやくしゃみなどによって空気中に飛び出し、感染することによって起こります。感染は主にのどですが、鼻腔内にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、おう吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病 2～3 週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

#### (2) 百日せき

百日せき菌がせきやくしゃみをした際に空気中に飛び出して、人に感染することで起こります。最近、長引くせきを特徴とする学童から思春期、成人の百日せきがみられ、乳幼児への感染源となって特に新生児・乳児が重症化する例があるので注意が必要です。

百日せきは、普通のかぜのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせきこむようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常でません。乳幼児はせきで呼吸ができ、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）けいれんが起きるあるいは突然呼吸がとまってしまうことなどがあります。肺炎や脳炎などの重い合併症を起こしやすく、新生児や乳児では命を落とすこともあります。

#### (3) 破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉の強直性けいれんを起こします。最初は、口が開かなくなるなどの症状が気付かれ、やがて全身の強直性けいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。患者の半数は本人や周りの人では気が付かない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

#### (4) ポリオ（急性灰白髄炎）

ポリオ（急性灰白髄炎）は「小児まひ」ともいわれるポリオウイルスによる感染症で、予防接種の効果により日本では自然流行はありませんが、世界では、まだポリオが発生している国があるため、警戒は世界中で続けられています。ポリオウイルスに感染しても、ほとんどの場合、症状は出ず、一生抵抗力（終生免疫）が得られます。ポリオウイルスに感染すると 100 人中 5～10 人には風邪様の症状があり、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。また、感染した人の中で約1,000～2,000人に1人の割合で手足の麻痺を起こします。一部の人には、その麻痺が永久に残ります。麻痺症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。

#### (5) Hib（ヒブ）感染症

インフルエンザ菌、特にb型（Hib：ヒブという）は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な深部（全身）感染症を起こす乳幼児の重篤な病原細菌です。体の中でもっとも大切な部分ともいえる脳や脊髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こる病気が髄膜炎です。乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、Hib（ヒブ）による髄膜炎は 5 歳未満人口 10 万対 7.1～8.3 とされ、年間約 400 人が発症し、約 11%が予後不良と推定されています。生後 4 か月～1 歳までの乳児が過半数を占めています。

### 2 副反応について

主な副反応としては、注射部位の紅斑（赤み）腫れ、硬結などがあります。以下の副反応が報告されています。

頻度	副反応
5%以上	注射部位の紅斑・硬結・腫脹、発熱、下痢、気分変化
1～5%未満	注射部位の熱感、湿疹、嘔吐、食欲減退、排便回数増加、軟便、上咽頭炎、鼻漏など
1%未満	注射部位の内出血・掻痒感・発疹、紅斑、じんましん、不眠、傾眠、泣きなど
頻度不明	疼痛、小水疱、そう痒症、咽頭紅斑、痰、喘鳴、くしゃみなど

重大な副反応としてはショック、アナフィラキシー様症状（じんましん・呼吸困難・血管浮腫など）血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどがあります。